

2023年11月29日

京都教区 共同宣教司牧ブロック  
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

2024年 司教年頭書簡

わたしのシノダリティを創ろう II

『シノドスがめざす〈道〉と〈宿〉の宣教』

2024年 司教年頭書簡の趣意書

2021年から始まった第16回通常シノドスの歩みは、来年10月の2回目の総会で終了します。今回のシノドスの目的は、現代の教会が、「シノダリティ（ともに歩むこと）」を教会の本質として再発見することにあります。

教皇フランシスコはテーマとして、交わり（communion）、参加（participation）、宣教（mission）の三つの要素を挙げています。これらは相互に深く関連し、影響し合うものとして、全体として捉える必要があります。

わたしは、今年の年頭書簡『わたしのシノダリティを創ろう』でもって、コロナ時代を生きるわたしたちが、日々の生活のなかでの「人との交わり」「社会参加」「信仰のあかし」についてふり返り、シノダリティを自らの生き方の基本に据えてみようと呼びかけました。

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）のパンデミックは、世界中の人々に深刻な影響を与えました。多くの人々が亡くなり、重症化し、経済的にも困窮しました。このような危機の中でも、自分や自国の安全だけを優先するのではなく、困っている人々に手を差し伸べる無数の人がおられました。ようやくパンデミックが収束しようとする今年、この度のシノドスを契機に、日本のカトリック教会がシノドスの精神で宣教するために、どのような回心が必要かを考えてみたいと思います。

今回のシノドスのねらいは、教会の制度や組織、信者の関与のあり方を変革することで、現代社会における教会の課題に対処しようとするのではなく、イエスが示された神の国の宣教に立ち戻り、その視点から今日の宣教の意味と方法を探求することです。

教皇フランシスコは、2020年に発表した回勅『兄弟の皆さん』の第2章「道端の異邦人」でイエスの〈善きサマリア人のたとえ〉（ルカ10・25-37）を現代の視点で解説しています。わたしはこのたとえにある〈道〉と〈宿〉に注目し、宣教の原点を探りたいと思います。

\*2024年の小教区司教訪問、各地区・ブロック合同堅信式ミサ、行事等の予定は  
京都教区のホームページ《司教スケジュール》をご覧ください。

以上。